

この夏こそ  
平和のことを考えよう！

府中市生涯学習センター

# 生涯 楽 習 だより

## 第80号

2022年7月1日 発行

### 「平和の森公園」を訪ねてみよう

生涯学習センターのちゅうバス停留所前に、府中市の「平和都市宣言（昭和61年）」の碑があります。普段見もせぬ通り過ぎていましたが、ウクライナの惨禍を目の当たりにし、あらためて読み返しました。「今、世界の人々は、この美しい地球上で、日々安心して暮らせる平和を願っています。」で始まる宣言は、「すべての国の人々と手を携え、かけがえのない地球を真に平和なものにし、愛する郷土を未来に引き継ぐことは、私たちの責務です。」と書かれています。

第二次世界大戦後77年、今まで多くの市民が犠牲になる戦争の惨劇が繰り返されているのは驚きとともに残念です。ロシアは直ちに侵攻を止め、ウクライナに



平和をと願わずにはいられません。

生涯学習センターのある地域は、戦時に陸軍燃料廠が開設され、戦後は米軍府中基地でした。30年前、府中市はその一角に宣言を未来に引き継ぐ場として、「平和の森公園・庭球場」と「生涯学習センター」を開設しました。

「平和の森公園」は、樹々に囲まれた東屋がある静かな公園です。平和を祈る野外彫刻「鳩と少女像」(森田やすこ作)があります。公園のエノキの大木は、府中の名木百選に選ばれ、長くこの地を見守っています。また、ウイーンとの友好都市交流を記念して30年前植樹された菩提樹(写真中央)も大きく育っています。

平和を考えるにふさわしい公園、平和あってこそこの生涯学習、ぜひ訪ねてみてください。

奥野英城（悠学の会）

企画・編集：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」

共同発行：府中市文化スポーツ部文化生涯学習課

ふちゅう生涯学習センター共同事業体



P1 平和の森公園を訪ねてみよう



P2 多文化共生の取組



P3 インタビュー 朗読・八重の会



P4 東府中・平和通り散策



《今月の作品》『うららか』  
絵画サークル「基礎」の提供作品から

# 平和は異文化の相互理解から

府中市 市民協働推進部 多様性社会推進課 多文化共生係 係長 三竹 聰

府中市は昭和61年に平和都市宣言を行い、平和をテーマとした展示会や映画上映会などを通じて平和意識を醸成する取組を行っています。今年度からは、新たに組織された多様性社会推進課が平和啓発事業を担当します。(写真はヘルナルス区からの訪問団との交流会)



## 多文化共生の取組

当課の大きな取組の一つが多文化共生の推進です。多文化共生とは、国籍や文化が異なる人々がお互いを認め合いながら、地域社会で暮らすことをあらわします。現在、府中市には5,000人を超える外国籍の方が在住しており、日本で生活するうえでの困りごとを解消し、また地域の一員として活躍していただくことを目指しています。

外国人市民を支援する取組として、府中国際交流サロンがあります。府中駅北第2庁舎を主な活動場所として、日本語学習会の開催や生活情報の提供など、平成7年から長年にわたり府中市における多文化共生に貢献しています。日本語学習会は市民ボランティアにより実施され、日常生活や仕事で使う日本語など、外国人学習者の希望に合わせた内容の学習を、原則1対1でお手伝いしています(下の写真)。料理教室や生け花などの文化交流活動も行っており、交流を通じた日本人・外国人の相互理解を目指しています。

また、市民活動センター・プラツ内には、府中市多文化共生センターDIVE(ダイブ)があり、外国人市民向けの情報発信や困りごとの相談などを受けていま



す。令和3年には新型コロナウイルスワクチン接種の案内を多言語で作成し、接種対象となる外国人市民に送付しました。多言語対応のワクチン接種予約の相談窓口も設置し、予約までの支援を行いました。

## やさしい日本語

多文化共生を実現するためには、外国人市民と地域の関わりが必要です。外国出身の方と関わるには、外国語で話さなければいけない、と思われるかもしれません。しかし、日本在住の外国人を対象としたある調査では、日常生活に困らない言語として日本語が英語を上回る結果が出ています。また、希望する情報発信の言語では「やさしい日本語」が他の言語を上回っています。やさしい日本語とは、難しい言葉を言い換える、一文を短くするなど、相手に配慮した分りやすい日本語です。やさしい日本語に言い換えることで、相手に伝わる確率は上がります。外国人だから日本語で話しても分らないのではないか、とは考えず、やさしい日本語での会話を試してみてください。

(「やさしい日本語」の言い換え具体例は右に掲載)

## 友好都市ウィーン市ヘルナルス区との交流

当市は平成4年にオーストリア共和国ウィーン市ヘルナルス区と友好協定を締結しており、本年は友好都市提携30周年を迎えます。ヘルナルス区とは高校生ホームステイ相互派遣を中心とした交流を続けています。ホームステイ派遣は、青少年が海外の家庭での生活を通して異文化を理解する貴重な機会となっています。また、本宿小学校と第九中学校はヘルナルス区の学校と友好協定を締結し、生徒が作成した作品の交換などを行っています。これまでに府中囃子や武藏国府太鼓(右の写真)合唱などの市民団体がヘルナルス区を訪問し、区民との交流に協力いただいています。

府中市においては、ヘルナ



ルス区からの友好訪問団によるオーストリア料理講習会やワルツ講習会を行うなど、区民・市民の参加による交流を深めています(左の写真)。

これらの交流の実績から、東京2020オリンピック・パラリンピックにおいて、オーストリアのホストタウンとして卓球オーストリア代表チームの事前キャンプを受け入れることにつながりました。

## 今後の平和啓発事業

多文化共生も友好都市交流も平和な社会を実現するための取組であり、また世界が平和であるから実施できるものもあります。

市内でも多様な人々が同じ地域の住民として暮らしています。お互いを知り、違いを理解し、認め合うことで誰もが暮らしやすい地域となり、それが平和な社会の実現への基礎となると考えます。

世界では紛争や侵略など、平和が脅かされる情勢が今日でも伝えられています。市としましても、展示会などによる意識啓発を継続するとともに、平和の実現につながる身近で具体的な取組について、皆様と考え、進めてまいります。

### ＜やさしい日本語への言い換え例＞

- ① 参加費は無料です  
→ 参加するとき お金はいりません
- ② 土足厳禁 → 靴を脱いでください
- ③ 公共交通機関でお越しください  
→ 電車かバスで来てください
- ④ 火災が発生した際は、すみやかに避難してください  
→ 火事になつた時は、すぐに逃げてください



## 学びを楽しむ 学びを支える その【10】

### 平和の大切さを朗読で伝え続けている「八重の会」のみなさん

一人でも多くの人々に朗読の楽しさを知ってほしいと、府中市の「平和のつどい」などに参加するなど、長く活動を続け活躍している八重の会。代表の井上芳子さん（左から2番目）と西田智美子さん、橋恵子さん、今野義宏さんにお話を伺いました。



#### 会の名前の由来を教えてください

この会は、2007年に8人の仲間で立ち上げたので、それに因んだ“八”と、長く続くようにとの願いを込め「八重の会」と名付けたのです。おかげさまで、徐々に会員も増え、今日まで続けることができました。

設立当初から、TAMA市民塾で講師をされておられた樋岡眞弓先生に指導していただき、今は月に2~3回活動しています。仲間との会合や朗読を通じて多くの人たちと交流できることが、継続の原動力になっていると思います。

#### 朗読の魅力は

朗読は、詩歌や書籍・文章などを、感情を込めて声に出していきます。一人で読む時もありますが、私たちの場合、多くは仲間全員で朗読劇の形式で表現しています。でも演劇とは違って、暗記ではなく、朗読するものを常に手に持って読み、できるだけ



原作者の意思に沿って忠実に表現することを心がけています。長編小説などを朗読するときは、時間の関係もあり先生と相談しながら多少短くして分かりやすく表現することもあります。

自分が読んで感動したものは他の人にも伝えたい、それが朗読をやってみようというきっかけの人が多いのですが、なかなか難しいですね。

#### 楽しさややり甲斐を感じられるときは

自分が読んで良かったと感じた本や楽しくなる本などを選び朗読会で読みますが、会場で聴いてくださる

方が、物語を想像し、物語の世界で遊んでいただけたらうれしいです。朗読会の後、朗読した本を「すぐに買いに行つてきます」「帰りに図書館で借りてきます」などと言われる方がおられました。それを聞いた時、本当にうれしかったですね。



また、今年で戦後77年になりますが、忘れられがちになっている戦争の悲惨さを、朗読を通じて次の

世代に伝えていければと思っています。公演を通じて皆さんに思いが伝わっていると感じられた時は、すごくうれしいです。

#### いろいろな活動をしておられますね

年2回、春と夏に朗読会を行っています。

春は年ごとにテーマを決めて昔話などの楽しい話や藤沢周平、向田邦子などの作品、『利休にたずねよ』といった小説を中心に構成しています。

夏は「この子たちの夏—ヒロシマ」から始まり、東京大空襲、長崎、沖縄、少女達の戦場、戦場より愛する人々への手紙など、戦争の悲惨さを語り継ぐテーマで、府中市教育委員会の後援を受け発表を行っています。

朗読会に使う書籍については、出来る限り作品の舞台となった場所に出かけていって、著者の思いを感じ、朗読の際その気持ちを表現しようと試みています。『利休にたずねよ』の京都や、戦火に傷ついた沖縄、長崎にも出かけました。この夏の公演のために言問橋にも行ってみました。そこには未だに東京大空襲の際の焦げ跡が残っていて、感じるものが多かったです。

また、府中市主催の「平和のつどい」にも参加し、府中市在住の戦争体験者の手記などを朗読しています。大切な命を戦争によって二度と失うことがないように、次世代を担う子どもたちにどう伝えていくか考えています。朗読会に小・中学生や高校生、大学生も参加しています。こうした活動を通じて、会の趣旨が伝わって新しく朗読を始めてくれる子どもたちが育ってくれることを願っています。

#### これから活動は

新しい会員を積極的に募集してこの会を継続発展させ、年2回の朗読会を続けていきたいと思っています。今年の夏は8月7日に「戦争を語り継ぐ東京大空襲」を行います。入場無料ですので、ぜひ皆さんに足を運んでいただきたいと思います。

（取材：編集部／柴田、竹村、山田、西谷）

#### <朗読グループ 八重の会>

活動場所：中央文化センター または プラッツ

活動日：月2~3回（月曜日/13:00~16:30）

指導者：樋岡眞弓先生

【連絡先】042-366-5588 井上

「平和通り」は、京王線東府中駅北口の旧甲州街道から始まり北へとのびている。立派なイチョウ並木を過ぎ、自衛隊の府中基地に突き当たって左折すると、芸術劇場が目に入る。その手前を右折しさらに北へ。左側は府中の森公園が続き、緑が素晴らしい。右側には自衛隊のフェンス。平和通りは突き当たりの美術館通りまで続く。平和についてちょっと考えさせられる素敵なお散策コース・平和通り。みなさんも訪れてみてはいかがでしょう。(鈴木)



### 《駅前のアーチ》

今回の散策の出発点は東府中駅。すぐ目の前には7つの白いアーチが組み合わされた「下水道完成記念碑」があります。府中市は上下水道共に100%の普及率で、これは市として誇るべきことだと言われています。今では当たり前のことですが、当時の工事は困難の連続だったと思います。その完成を迎えた時の感激が想像できますね。

これを眺めて思うのは、「世の中のことも人間の体も水道と同じで、循環がよければ概ねよしである。これに加えて、心も安定して明るく過ごせていれば、争いも病も近づきにくくなるのではないか」と。今の世は問題が多く明るい気持ちにはなりにくいですが、一人一人が心の中に小さな明かりを灯し、いつか大きな明かりになって世の中を照らしていく平和になっていくかもと思います。(山田)



### 《平和通り広場公園》

平和通りに沿って進むと自衛隊基地にぶつかりますが、その角の「平和通り広場公園」には、府中市「彫刻のあるまちづくり」事業の屋外彫刻17体の中で第1号となる「春に寄せて」が、周辺の景観とよくマッチするように展示されています。また、同彫刻のマケット(模型)が傍に設置されており、視覚障害の方も作品の全体を体感してもらえるようにしています。作者は山本正道氏で横浜の山下公園に展示されている「赤い靴」の彫像を作成された方として有名です。平和通りの周辺には、屋外彫刻が他にも見られます。ぜひ、のんびりと散策する中で美術鑑賞はいかがでしょうか。(山下)



### 《平和でよかった!》

憲法記念日前日の5月2日、東府中駅前から約1km続く「平和通り」を歩いた。5月になっても少し肌寒いが、散歩するにはとても気持ち良い朝だった。イチョウ並木の新緑が綺麗。早速、スマホでパチリ。イチョウの根元近くには、府中の名木100選を示す案内板があった。名木の並木が黄色に染まる秋も楽しみだ。その後も、街並み・風景を眺めながら歩いていくと、航空自衛隊府中基地が見えてくる。思わず基地にレンズを向けて、ハッとした。ここが戦時中の日本ならどうだろう。とてもなく面倒な事態に陥っている自分を想像するとともに、現在の日本が平和である事のありがたさを痛感した。(竹村)



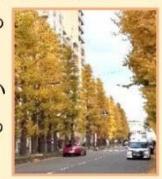
### 《ガマズミに思う》

平和の森公園まで来たら足を延ばして浅間山へ。多磨霊園に近い堂山の浅間神社から女坂を下りつつ、ムサシノキスゲ、キンラン、ギンランを楽しめます。さらに中山・北側のおみたらし神社に向かうと、ガマズミが可愛い花を見せてくれます。秋にできる赤い実は果実酒になります。これはウクライナ、そしてロシアで愛飲されるそうです。両国民が早く和らいでこのガマズミ酒を酌み交わせますように。(中濱)

### 《電線がない》

平和通りを歩き始めて、すぐ目に入ったのは350mと続くイチョウ並木。ちょうど5月初旬でしたので、新緑の時期を迎えていました。歩きながらふと見上げると電線がない! 市の道路課に聞いたところ無電柱化事業を行っているようです。通りかかつた時に見上げてみては。

秋に葉が黄色に色づいたらみごとな並木になっているでしょう。ギンナンは収穫できるのでしょうか。少し楽しみなような気がします。(井口)



### <編集後記にかえて>

東府中駅からイチョウ並木を歩いていくと、自衛隊の敷地を迂回するように平和通りが続いて、生涯学習センター横の平和の森公園に。さほどの距離があるわけではないので意識もせずにいつも歩いている道。通りの名前を考えることなく目的地までの道程の一部にしか思っていませんでした。今回、改めて名前や風景を感じながら歩くことで、身近な場所が新鮮に感じられました。

生活の中では知っているつもりの府中。いろいろな角度で自身の周りを眺めることで、楽しい時間が増えました。(辻)